

令和2（2020）年度 学校教育自己診断 分析

<生徒の結果分析>

【学習指導等】

- ・「授業はわかりやすい」（生徒）の肯定が69.0%→71.8%で今年も伸びている。授業研究週間の取組や全国の授業事例閲覧が可能なサイトの導入、学習支援クラウドサービスの活用等があり、学校全体として授業力向上の意識が今まで以上に醸成された。
- ・「発表する機会がある」（生徒）では71.0%→77.3%と今年も大幅に伸びており、アウトプットする授業や機会を充実させていることがわかる。特に「総合的な探究の時間」の影響も大きいと考える。今年度より3年間を見通した計画を立てて進めている。探求以外の授業でもアウトプットする機会を増やし、考えさせることを重視する授業を各教科で展開する必要がある。
- ・進路情報の提供は「情報は提供されている」（生徒）において肯定が88.5%→89.3%と微増。共通テストが始まったこと、今後の大学状況、入試状況についてもっと情報提供していかなければならない。提供の方法として教育産業の資料を有効活用することを進めたいと考えている。教員にはそのスキルを高めることを促進したい。

【生徒指導等】

- ・相談機能においては「相談にのってくれる先生がいる」（生徒）で70.2%→71.6%と微増している。一方教員では「相談体制が整備され、学級担任以外にも相談できる」で85.2%→94.2%と大きく伸びている。教員全体で寄り添う意識は高まっていると思われる。生徒に比例した伸びがないのは、寄り添い方などのスキルの向上が必要なのではないか。生徒への接し方をさらに充実させることで生徒の数値をさらに伸ばしたい。
- ・部活動関係の指標においては「部活動に積極的に取り組んでいる」73.0%→76.8%、「部活動を通じて成長している」77.3%→80.5%と伸びており、制限がある中でも効率的な練習を積み満足度が増しているのではないかと考えている。実際、運動部であれば公式戦での上位進出、文化部でも地域貢献の充実が多くあり、パフォーマンスでも向上を感じている。さらに高みを目指せるよう環境整備でバックアップしていきたい。
- ・「人権の大切さを学ぶ機会がある」では82.6%→75.8%と下がっているが、講演会の実施や人権だよりの発行は例年通りに行った。
授業では人権について触れる時間が少ないので、学校教育全体で人権について考える機会を作ることで鋭い人権感覚を醸成されていきたい。次年度はそういうことを意識して臨みたい。

【学校運営】

- ・「学校へ行くのが楽しい」では 82.7%→ 82.9%と横ばいであるが、このコロナ禍では評価できる範囲と考える。本校の場合は安全確保の上で行事をできるだけ実施したり、人間関係構築等にも細心の注意を払ってきたことが寄与しているのではないかと考える。
- ・「文化祭や体育大会は活発で楽しい」では 86.6%→83.0% と下がっているところを見ると、縮小開催の影響はあろうと思われる。ただ、この程度の低下でおさまったのは、教育活動全体を通じて教員からの励ましや支援が大きかったと推測する。

<教員の結果分析>

- ・「校長は理念や明確な考えを持っている」72.2%→ 67.6%、「教職員の意見が反映されている」50.0%→44.1% となっている。校長からの発信が高いとは言えない。教職員の意見を吸い上げた学校運営に努めたが、詳細を確認していく必要がある。
- ・「教員間で授業方法等の検討する機会を持っている」81.5%→ 64.7% と大きく低下。感染症対策で余裕がなかったとはいえ、心配になる数値である。観点別評価の導入、タブレット PC 導入など次年度以降は相互に学びあう姿勢は必至であるので、組織的にも学びあいやすいように取り組み、充実させたい。